

CINGA活動報告会

「対話」を通して私たちの活動を振り返り考える

■内 容

あいさつ 特定非営利活動法人国際活動市民中心 代表理事 黒澤 玉夫

第1部 10時～12時

地域日本語教育事業報告会（120分） 「まちづくりのための日本語教育」

昨年、「日本語教育の推進に関する法律」が施行されました。今後、自治体も外国人市民に対する日本語教育実施が求められることとなります。自治体はどのように日本語教育に関わっていけばよいのでしょうか。

CINGAは文化庁から委託を受け、日本語学習支援者研修カリキュラムの開発を始めました。そして2018、2019年に越谷市と港区において地域担当者と連携して研修を実施しました。報告会では、研修の内容・実施のプロセス・関係者の声をご紹介します。「まちづくりのための日本語教育」とは何かを皆さんと考えます。

■CINGA学習支援者研修カリキュラム開発及び研修実施の報告(60分)

本カリキュラム開発事業について、研修実施地域担当者との連携に焦点を当てて報告します。研修の概要のほか、行政、国際交流協会の各担当者の声を交えて、研修実施を通じた意識共有のプロセスをお伝えします。

■参加者による意見交換と全体共有(60分)

まちづくりに資する日本語教育のあり方や実践課題について、行政、国際交流協会、日本語教育関係者などの属性別に分かれて意見交換を行い、全体で共有します。

第2部 12時40分～14時

2017-2019年少数言語通訳者・相談員研修会報告会 「『研修』から何を学んだのか」

3年間を通して、相談センターの相談員とコミュニティで活動する少数言語通訳者のための研修を行いました。その中心にすえたのは「実践的な研修」です。相談事例の研究を通じて相談員と通訳が経験や疑問・悩みを共有したと好評を得た研修を再現し、疑似体験したうえで、皆さんと共に現場で必要な研修のあり方を考えます。

■3年間の研修事業の振り返りと課題報告（20分）

2017年の相談員対象のケースワーク研修、2018年の少数言語通訳対象の研修を引き継ぎ、2019年度は相談員と通訳者がともに学びあう参加型の実践的研修を実施しました。研修担当者がこれら3年間の研修事業をクリティカルに振り返り成果と課題を検証します。

■ケースワーク研修の疑似体験から考える研修のありかた（60分）

後半は前半で報告した「カンファレンス」というケースワーク型研修を参加者が疑似体験し、当研修の企画・運営について批評します。2019年の研修をたたき台に、担当者と参加者が現場で役に立つのはどのような研修なのか共に考えます。

第3部 14時10分～15時30分

ワンストップセンター100か所訪問キャラバン報告会

「私たちのワンストップ相談センターをどうつくっていくのか?!」

全国のワンストップ相談センターを訪問し、現場職員等と対話を重ねた事業について概要を報告します。と同時に、相談センターについての課題を語りあい、その課題を自分たちの現場で超えていくための仕組みを考えたいと思います。また、参加者同士の出会いの場、ネットワーキングの場したいと思います。

■CINGAワンストップセンター訪問報告（40分）

CINGAコーディネーターらが全国50か所を越えるワンストップセンターを訪問し、対話の中から学んだ多様なセンター運営の在り方と共通課題について報告します。

■参加者による意見交換 ワンストップセンターの課題を超えるために（30分）

CINGAは2020年度、今回の訪問事業を踏まえて、全国のワンストップセンターをサポートする活動を行います。「相談事業と守秘義務」「多言語化の課題」「相談表と集計のあり方」「相談員、コーディネーターの育成と雇用」「専門機関へつなぐとは」などのトピックを立てて、会場にて参加者同士で議論し、次年度への事業へとつなぎます。

■ネットワーキングタイム 名刺交換（10分）